

シリーズ「さつまの女性」其の(六)
時代を超えて今に生きる

女殿様松寿院〜 寄稿 島津登志子

幕末の時代、種子島の女殿様として島政を行った松寿院は、寛政9年（1797）薩摩藩主島津齊宣の次女として鹿児島城に生まれ、お隣と名付けられました。生後3ヶ月で種子島家へ輿入れし、15歳（以後年齢は数え年）で、後に23代島主となる種子島久道（19歳）と結ばれています。種子島家は、鎌倉期より続く名家で、薩摩藩では家老職などをつとめていました。しかし、出産した六人の子供のうち二人の男子、二人の女子が次々と夭折、成長したのは二人の娘だけでした。文政12年（1829）、夫の久道が亡くなり、33歳のお隣は松寿院となりました。後継に相応しい人物を見出せず、松寿院は自身が家政を執ることを薩摩藩に願ひ出、認められました。藩主斉興の妹が政務をとれば、種子島家への影響力が強化的なという利点が、薩摩藩側にもあったと考えられます。天保13年（1842）異母弟の久珍が、養子となって家督を継承するまでの13年間、松寿院は政務を執りました。本家と血縁の濃い松寿院は、鹿児島城内でも重い扱いを受けています。嘉永6年（1853）斉彬の養女として篤姫が入城した時は、篤姫の両親と共に食事をし、斉彬の着城の折は、篤姫、典姫（斉彬娘）と共にお出迎えをするなど、鹿児島城大奥のまとめ役のような存在だったと推察されます。

安政元年（1854）正月、久珍が33歳の若さで他界、家督を継いだのは乳飲み子の25代久尚でした。58歳の松寿院は、後見役として再び島政を執り、三大事業を果たします。安政4年正月、種子島南部の大浦川の川直しを、御手元金を使って開始します。大浦川の周辺の土地は、海面と同じ高さで、満ち潮では海水が川上にさかのぼり、潮入田となって米がとれなかったためです。十一月には完成、以後美田が広がりました。また、大浦川河口での塩田作りも開始、そのための堤防工事も同年完成しました。その後さらに製法の研究を重ね、文久元年（1861）には、年間一千石の塩が生産できるようになり、それまで塩がまかなえなかった島内の自給のみでなく、屋久島へも売れるようになりました。

マングローブパーク（大浦川河口）



万延元年（1860）には、港の防波堤建設の許可と、毎年300両ずつ4年間1200両を薩摩藩より提供してもらった約束を得ました。種子島の港は暗礁が多く、北西の季節風も強くて、交通の要衝にもかかわらず危険が多かったのです。文久元年十月には、従来の波止めを増築した築島工事が、翌年には沖の波止めの工事が終了しました。約3年の月日をかけ、歴代島主の願いだっただ安全に出入りの出来る港の完成です。松寿院、66歳

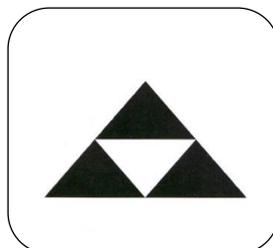
の時でした。慶応元年（1865）、69歳で亡くなった松寿院は、女性ながら並外れた政治力を発揮し、外圧迫る多難な時期を、薩摩藩との巧みな協力で見事に乗り切りました。また、種子島を安心して暮らせる島にしたいという松寿院の利他の志が、周囲にも理解されていたからこそ大きな事業は成し遂げられたと考えられます。課せられた人生を、懸命に骨太に生き抜いた松寿院の姿に、深い感動を覚えずにはいられません。

参考 村川元子『松寿院』 鹿児島大学附属図書館『女性たちの明治維新』
崎山健文「史料紹介」嘉永六年 表方御右筆問 日記」(一)『黎明館調査研究報告』第23集



旧西之表港の築島と突堤

松寿院の墓
(御拝塔墓地)



〜紀行〜

今井俊子

種子島の奥深い歴史と

宇宙に一番近い場所を訪ねて

十一月四日快晴。高速船「トッピー」午前九時西之表港到着。二名様はバスに乗り換え、夢の種子島二泊三日の旅へ出発。旅のテーマの一つは「種子島家の女殿様松寿院の事績と種子島の不思議」・・・まずは種子島の城・赤尾木城址。風の強い種子島に防風林としてアコウの木を植えたことからこの名がつけられました。

種子島は一五四三年鉄砲伝来の島として教科書にも登場しますが、当主の種子島時義は、その時十五才でした。西洋の破壊力に目をみはった時義はポルトガル人から二丁の鉄砲を二千両で買い（西村天因著、南島偉功伝）、製造を矢板金兵衛に命じました。しかし「ネジ」の作り方がどうしてもわからず、思いあぐねた末に娘の「わかさ」をポルトガル人に嫁がせ、その製造方法を教えて貰いました。国産第一号は「鉄砲館」に展示されており、歴史の転換点を感じることが出来ます。「鉄砲館」は古代の歴史から宇宙ロケットまで楽しく学べる資料館で「ウシウマ」という絶滅した馬の標本も展示しており、興味をそそられます。く「月窓亭」く

一七九三年家老の羽生道潔が建てた武家屋敷で、明治には孫の慎翁がこの家で茶道・華道の修行に励み、池坊大日本会頭職を務め、鹿児島県の文化向上に尽くしました。明治十年の西南戦争では鹿児島の種子島家上屋敷が焼け落とされ、住む家が

なくなった二七代守時公を月窓亭に迎え入れ、種子島屋敷となりました。七百年の歴史を綴った「種子島家譜」生き人形の「山の井様」等の宝物が多数保存され、今日も尚この亭を訪れる人が絶えません。亭では種子島に自生する「月桃」から作られた月桃茶が振舞われます。その味に魅せられたファンも多いそうです。「月桃」は鹿児島ではサネン花と呼ばれ、サネンのタ「は心地よい香りに包まれた郷土菓子で、サネンの葉は防虫剤にもなります。

〜地域情報〜

黒潮の流れる種子島は気候も温暖で、年間の平均気温は十九・六度。降雨量は二、三五〇ミリと少雨で、最も高い山が二八二メートルと平たい島です。島の特産は薩摩芋、落花生、黒糖。そして豊かな漁場、サーフィンの適地。人口二八、五四九人（平成三二年三月三一日現在）人口減少が続いている印象ですが、実は一度島を出た若者の三〇〜四〇％が結婚し家族と共に島に戻って来ています。人口減少の原因は高齢者の死亡が出生児より多いことが挙げられます。田舎には働く場所がないといわれますが、「生活産業」と呼ばれる職業があり、日常の生活を支えます。ライフライン・道路・船舶・港湾・学校・病院・介護施設・役場・スーパー・コンビニ・ガソリンスタンド・修理工場・保険会社・食事処・旅館・民宿・ホテルなどあらゆる業種が揃っています。（徳野貞雄・南日本新聞より）。暮らしやすいさ、子育てのしやすさといった、お金だけの都会暮らしはしたくないと考える若者たちの将来をみすえた考え方は正し

いと思います。馬毛島問題で高校生たちが島の将来について不安を述べていましたが、行政担当者は島の特性を再度見直すべきではないでしょうか。

く御拝塔墓地（オハートーぼち）く

種子島家歴代の当主とその家族の墓です。ひと際目を引く謎めいた墓が「カタリナ永俊尼」キリスト教名と仏教名を持つ女性です。島津十九代光久の外祖母でキリシタン大名小西行長に嫁した女性ですが、行長亡き後、薩州島津家忠辰の弟忠清の妻となり、慶安という女子を産みます。この慶安はやがて島津十八代家久の側室となり、光久を産みます。元々小西行長の影響を受けてキリシタンとなり、島津家と縁続きとなっても信仰を捨てず、家久は徳川幕府の禁教令に基づいて、カタリナ永俊尼を種子島に移住させました。カタリナ永俊尼とその娘永身と孫於鶴の三人の墓にわざわざ「この人は紛れもない仏教徒です」と刻んであることから、信念を貫き毅然とした姿勢が伝わります。（次頁へ続く）



御拝塔墓地
カタリナ永俊尼の墓



月窓亭

く松寿院の事績く

ハ 大浦川の川直し

大浦川は現在の中種子町と南種子町の境付近を流れている海拔0メートル地帯に位置しています。現在は壮大なマングローブ森が広がる場所の上流に水田が広がっていますが、しかし、当時は満潮時ともなると海水が一キロ上流の三町歩が潮入田となるのです。そこで松寿院は川幅を広げ、土手を築き、潮入りを防ぐ大土木工事を行って、豊かな水田地帯を作り上げました。工事に携わる農民の安全祈願の為、水天宮を祀って崇めての大工事です。

ロ 塩田開発

塩田は大浦川の河口にありましたが、今では干潟となつています。

元々は網代焚きで効率が悪いものでした。そこで出水から技術者を招いて、本釜焚きとしたそうです。四年の歳月をかけて完成させておりますので、相当な難工事だったのでしょう。

三 西之表港波止場修築

青い海の広がる旧西之表港に築島と沖の岩岐と呼ばれる防波堤が、現在でも見事な形で残されています。特に目を引くのが鹿児島島の小野の石工十三人が呼ばれて工事に携わっていることです。甲突川に五石橋を架けたあの石工集団に違いありません。本藩から調査にやって来た役人を宴会でもてなし、帰りには土産物をごっそり持たせた。と記されていることから、三大事業の中でも、築堤工事は自分がやり遂げねば、という松寿院の強い思いが伝わってきます。(参考 村川元子著 松寿院)

く広田遺跡く

この島の住みやすさにより旧石器時代から人間の歴史が刻まれています。全島に亘って各時代の遺跡が各所にみられ、発掘品から高い文化度がわかります。中でも弥生時代を示す「広田遺跡」では南方産の貝を利用した貝製品、一五八体の集団墓地、日本初の文字とされる「山」と刻まれた遺跡などが展示され、一日中飽きない国史跡の「広田遺跡ミュージアム」はお勧めです。



種子島の奥深い歴史と宇宙に一番近い場所を訪ねる

令和2年11月4日(水)～6日(金) 2泊3日

11/4(水) 鹿児島港～(高速船)～西之表港 == 鉄砲館 == 赤尾木城跡 == 月窓亭 == 御拝塔墓地・栖林寺 == 味処井元(昼食) == 築島 == 慈遠寺跡 == ヘゴ自生群落地 == 田畑鋏製作所 == 種子島いわさきホテル

11/5(木) ホテル == 広田遺跡 == 美の吉(昼食) == 赤米館 == 花峰小 == 前之浜 == 門倉岬 == 八作(夕食) == 種子島いわさきホテル

11/6(金) ホテル == 宇宙科学技術館 == トンミー市場 == 黒潮(昼食) == 古市家住宅 == 日本一ソテツ == マングローブパーク == 千座の岩屋 == 西之表港～(高速船)～鹿児島港

2020年度これまでの活動

街歩き(街歩きに関する事業)

09月20日	第56回街歩き	西郷さんを偲んで	05名
10月24日	第57回街歩き	庶民パワーの町仲町・金生町	04名
11月28日	第58回街歩き	桜島アイランドビューで溶岩散歩	11名

バスツアー(観光資源の発掘に関する事業)

09月19日	乱世の武人島津義弘と新納忠元を旅する	えびの、栗野、大口	26名
10月17日	大木公彦先生と行く大地は語る旅～驚異の阿多カルデラ～		25名

ツアー(観光資源の発掘に関する事業)

11月4日～6日	種子島の奥深い歴史と宇宙に一番近い場所を訪ねる		21名
----------	-------------------------	--	-----

講座「歴史よもやま話」(観光に携わる人材育成に関する事業)

06月11日	家久の上京日記		16名
06月25日	「麒麟がくる」明智光秀の謎		25名
07月09日	稲盛和夫の世界とJALの奇跡		17名
08月27日	種子島の女城主「松寿院」		22名
09月24日	アヘン戦争をめぐる斉彬と幕府		21名
10月29日	斉彬の集成館事業		17名
11月19日	生麦事件の真相		23名
12月10日	薩摩を背負って立つ～近衛忠房御簾中「貞姫」		25名

今年もありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願致します。

編集責任者 今井征男